



小 割 直 彦 議員

## LPガス利用者に支援は

山本地域創生推進室長

### プレミアム商品券を拡充

**Q** 世界的な物価高騰、エネルギー価格値上げのしわ寄せが、住民の日常生活に影響を与えている。一般家庭に向けた、本町での支援策は。

**A** 世界的な物価高騰、エネルギー価格値上げの金額免除、子育て世帯への応援給付や中小企業等のエネルギー価格高騰支援給付等、様々行ってきた。

**Q** 他市町のように商品券や燃料券を配布できないか。

**A** 本町では、コロナ禍における物価高騰等による住民生活や事業者を支援するため、水道基本料金等の半年分

**A** LP料金の支払いも可能なプレミアム付商品券のプレミアム

率を3割に引き上げ、今年度は発行額も1.6倍に拡充した。

**Q** 今後の支援に新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金（コロナ禍における原油高騰・物価高騰対

応分）の活用はできないか。

**A** 交付金の活用について、現在のところ、来年度分は情報がないが、引き続きプレミアム付商品券を継続するなどの支援を行っていく。



高騰しているLPガス

## 放置竹林の対策は

菱本産業環境課長

### 筍の生産・販売を促進

**Q** 放置竹林を減らし、活用することが大切だが、本町での放置竹林の現状は。

**A** 竹林面積は36・66ha。放置竹林を対象にした調査はなく、正確には把握していない。

**Q** 放置竹林を広げない方策は。

**A** 土地所有者が管理するのが原則だが、NPO団体等が竹林の間伐や、他の農産物栽培へ転換するなどの取組がある。山城広域振興局の「放置竹林整備マニュアル」を参考に検討したい。

替品に加工できないか。

**A** 本町では、竹炭の製造や特産品販売をめざしたメンマの製造、竹灯籠などのイベントにも活用されている。

**Q** 今後生産者・所有者への支援や協力は。

**Q** 竹の有効活用で、特産品やプラスチック代

**A** 筍生産に必要な肥料の価格高騰に対して、購入した肥料の一部を助成する。



侵食が進む町内の竹藪



岡田 久雄 議員

## 带状疱疹ワクチンに公費助成は

畑中保健センター所長

### 国の動向等 情報収集に努める

Q 带状疱疹の患者が増加しているとの指摘があるが、本町での発症の状況は。

A 「感染症法」で医療機関から届け出を要する対象疾患ではないため、推計による把握はできない。

Q 带状疱疹にはどのような後遺症があるか。

Q ワクチンは効果的

だが、全額自己負担のため接種をためらう人が多い。どんな種類があり、その費用は。

A ワクチンには2種類ある。

一つは生ワクチンの水痘ワクチン「ビケン」で、1回接種で7千円から1万円。

もう一つは不活化ワクチンの「シングリッ

クス」で、2回接種が必要。1回2万円、3万円程度。

Q ワクチン接種助成制度を実施してはどうか。

A 国で定期接種化の検討が進められている。国の動向・先進自治体の取組など情報収集に努める。

## 送迎バスの子ども置き去り防止は

花木住民福祉課長

### 安全装置設置に 取り組みたい

Q こども園の送迎バスに置き去りにされ、3歳児が亡くなった。これを受けて、政府は全国の保育所などの送迎バスに置き去り防止安全装置の設置を義務付けた。

A 北・南区の3歳、5歳児の送迎と、園外保育・交流保育等に利用している。

本町の保育園バスの送迎はどのような園児が利用しているのか、

Q 園児の体調報告や休みの連絡方法は。

A 保護者からの電話連絡と、日々の連絡帳で行っている。

Q これまでの事例を受けて、安全対策会議などで検討した内容は。

A 以前から「バス対応マニュアル」を作成しているが再点検し、安全確認を徹底した。

運転手1人、添乗員1人の2名体制で送迎している。

Q 国土交通省の「送迎バスの置き去り防止を支援する安全装置

のガイドライン」の概要は。

A 装置の機能要件等や、取付業者からバス管理者への、使用上の説明責任の内容等が明記されている。

Q 本町の保育園バスへの安全装置設置状況は。

A 安全装置にかかる国の認定が進められているので、補助金等の動向を注視しながら、設置に取り組みたい。



現在運行している保育園バス



田中保美 議員

## 19-09号線の側溝整備は

高江学校教育課長  
柳原建設課長

地元区  
理解・協力が必要

**Q** 玉水駅に東口ができて地元住民は、利便性が向上したと喜んでいますが、往来が多くなり、日々の利用者の安全面が危惧されている。  
生徒・児童・園児の利用に加え、自動車による送迎は、一日何台往来があるのか。

**A** やまぶき支援学校

は14名程度、小学校は2名程度、保育園児は3名程度、自動車の送迎は、1日40台程度。  
**Q** 拡幅のためには、側溝整備が必要と考えるが。

**A** 拡幅するためには、水路に蓋をかける等の方法が考えられる。

実施には、沿線の住民や地元区の理解・協力が不可欠だと考える。



町道19-09線 玉川保育園～玉水東口

## ふるさと納税の実績は

山本地域創生推進室長

3年間で  
5.3倍以上に

**Q** 令和4年度の納税額の実績と、これまでの年度別の納税額と比較して増減は。

**A** 今年度の実績見込みについては、1月入金集計で、寄附額726万1000円、寄附者数は415人となっている。

令和4年度末で寄附額809万4000円、寄附者数404人で、

既に寄附者数は昨年末を上回っており、金額については、昨年度は大口の寄附が数件あったため、現時点では少し下回っているが、

今年度末には昨年度と概ね同程度になると見込んでいる。また年度別の増減については、令和元年度末で151万8010円、令和2年度末で241万9000円、令和3年度は末は809万4000円と増加しており、3年間で寄附金額は5.3倍以上となっている。

**A** 寄附金の有効利用については「ふるさと納税検討委員会」において協議し、今年度については「玉川堤の桜の保全プロジェクト」として井堤保勝会が行う保全事業に補助している。

今後さらなる返礼品の充実・魅力の向上に向けて「井手町ふるさと納税検討委員会」の意見をいただき取り組んでいく。

**Q** 寄附金の活用には、どのようなものがあり、返礼品の充実・魅力向上に対する取組は。



ふるさと納税の返礼品の1つとして人気のジェラート



鎌田 隆 宏 議員

## 災害備蓄状況は

脇本総務課長

### 府と町で折半して備蓄

**Q** 本町が食料や飲料水などの備蓄している物資はどれだけあり、どの程度の被害規模を想定しているのか。

**A** 性用衛生用品860枚保管している。

府の公的備蓄の考えに基づき、奈良盆地東縁断層帯の地震が発生した際の被害想定を避けるため、他地域からの支援や流通等が困難な災害発生後1日分を公的支援として、府と本町で折半して備蓄している。

**A** 現在備蓄している物資は、食料2700食、飲料水1284ℓ、毛布1300枚、簡易トイレ14基、大人用おむつ432枚、子ども用おむつ1252枚、女

**Q** 食料等備蓄物資の入れ替えはこうなっているのか。

**A** 最も期間が短いもので令和6年4月となっており、期限が切れるものについては、順次買い替える。

**Q** 協定を締結している業者等から物資の提供は受けられるのか。

**A** 乙訓、宇城久、綴喜の6市4町で京都市

部都市災害時相互応援協定、また近畿2府4県における近畿府県町村会災害時相互支援に関する協定の締結のほか、建設業、小売業、運送業、通信業、医師会など、16の企業や団体と協定を締結している。

また、今年1月に京都市山城白坂テクノパーク連絡協議会と災害時における支援等協力に関する協定を城陽市とともに締結した。



家庭にも最低3日分の備蓄を心掛けましょう

## 情報共有アプリの導入は

高江学校教育課長

### 検討していく

**Q** 本町の小・中学校で、タブレットに情報共有アプリが導入されていると聞くが、保護者との情報共有等に活用されているか。

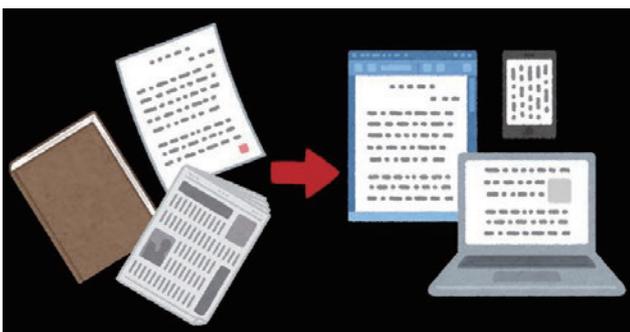
**Q** 町全体で情報共有アプリを活用してはどうか。

**A** アプリは、児童生徒の学習において使用する目的で導入しており、保護者との情報共有では活用していない。

**A** 町全体の情報共有アプリの活用は、先進自治体での導入事例を参考にしながら検討していく。

**Q** 保育園における、保護者の欠席連絡や子供の健康連絡等の方法は。

**A** 保護者からの電話連絡のほか、日々保護者と保育士が園児の情報を交わす連絡帳が主な連絡方法となっている。



紙とアプリ 良い所を活用できれば



木村武壽 議員

## 猿被害の取組状況は

菱本産業環境課長  
高江学校教育課長

電動ガン貸出し用に  
予算計上

**Q** 本町では、猿の宅内への侵入等の被害が、年々深刻になってきている。全国的例を調べてみると、猿は自分より弱い子どもを襲うことがある。手遅れになる前に、何か予防策が必要と考えるが、猿被害などへの注意喚起、住民への周知など、現在の取組状況は。

**A** 住民要望を受け、ケット花火の配布や、職員によるパトロール、電動ガンでの追い払い活動を実施している。地域全体での取組が大切であることから、電動ガンの貸出用等に令和5年度の当初予算に30丁分の予算を計上した。

**Q** 通学、通園時に猿に遭遇した時の対応、安全指導は。

**A** 園児・児童に対して、猿を見たら近づかない等の指導をしている。児童・生徒のみの登下校となる、小・中学校では、「子ども見守り隊」や住民からの猿出没の情報が入った場合等には、パトロールを実施している。

**Q** 発信器をつけた猿の追い払いに無線機の活用状況は。

**A** 町内には「山城A群」と認識されている、木津川市の山城町域と本町を行き来する群れの中に、2頭発信器をつけた猿が存在している。半径500m範囲に発信器をつけた猿がいれば、ランプと音で反応し、追い払い活動

において有効に活用している。

**Q** 役場職員による猿の追い払い実績は。

**A** 出没箇所ルートを確認し、通報をパトロールし、通報

を受けた際には、現場へ向かい電動ガン等で追い払いを実施している。出没箇所へは毎日パトロールや、追い払いを実施することで、一定期間出没しなくなる実績がある。



宅内への侵入等の被害が深刻に



猿の群れを見たら近づかず役場に通報を



谷田 利一 議員

## 住宅開発事業の早期着手の考えは

汐見町長  
花木住民福祉課長

当初予算に宅地開発  
検討業務を計上

**Q** 本町は、人口減少をいかにしていく止めるかという大きな課題を抱えている。

平成30年度から令和4年度までの年度別の人口減少数は。

**A** 平成30年度132人、令和元年度50人、令和2年度152人、令和3年度128人、令和4年度1月末時点

**Q** 自然動態及び社会動態の近年の傾向は。

**A** 平成30年度から令和4年度1月末時点

で、出生と死亡数の差による自然減の累計が319人、転入と転出数の差による社会減の累計が123人。企業進出の影響で社会減の

割合は自然減を下回る。

**Q** 主な転出先は。

**A** 京田辺市が一番多く、次に木津川市、宇治市、城陽市と近隣自治体への転出が多い傾向となっている。

**Q** 開発適地拡大や新興住宅地の開発誘導な

どの事業展開、住宅開発事業の早期着手の考えは。

**A** 令和5年度当初予算に「宅地開発検討業務」を計上し、国道バイパスやアクセス道路周辺に住宅開発適地の選定や事業手法など具体的な検討に着手する。

## 通学カバンの無料配布は

中田教育長  
寺井企画財政課長

前向きに検討

**Q** 西協府知事の講演で「京都子育て支援医療助成」の制度拡充、

「子どもの教育のための総合交付金」を創設し、府と市町村が一体

となつて「子育て環境日本一」を推進するとの話があった。

府の制度拡充による本町の財政負担はどの

程度軽減されるのか。

また、軽減額を活用して何か子育て支援に取り組むのか。

**A** 本町の負担は、100万円程度の減額を見込んでいる。

保育料の第2子無償化、ランリユックの支給、数検の受験機会の

拡大、不妊治療費助成の拡充、奨学金の返還に対する支援等を検討している。

**Q** 「子どもの教育のための総合交付金」の概要は。

**A** 予算額3億円で補助率は1/2、建物な

どのハード事業は対象外。

**Q** 中学生の通学カバンの無償配布についての考えは。

**A** 子育て支援の充実を図るため、前向きに検討する。



泉ヶ丘中学校で使用している通学用カバン



奥田 俊夫 議員

## 子ども模擬議会開催を

中田教育長

## 検討していきたい

Q 近年、若者の政治への関心の低下が懸念されている。

子ども達が議会や行政の仕組みを理解する機会を持てれば、将来の有権者として、議会への関心やまちへの愛着も深まると思うが町の考えは。

A 井手町の未来を担う子どもたちが、本町

「子ども模擬議会」等の開催については、子ども達の学習や発達段階をふまえて、先進自治体の事例等を参考にしながら、議員の皆さんとともに検討していきたい。



新庁舎と共に建築される新しい議場

## 災害対策は

柳原建設課長  
脇本総務課長

## 災害時相互 応援協定を締結

Q 木造住宅の耐震診断や耐震改修の費用の一部を補助する事業の

直近3年間での申請件数は。

A

(令和2年度)  
耐震診断

2件

耐震改修

簡易耐震改修

耐震診断

簡易耐震改修

耐震診断

簡易耐震改修

耐震診断

簡易耐震改修

耐震診断

Q 近隣市町との災害時相互支援協定などを締結してはどうか。

A 京都府南部都市災害時相互応援協定を締結している。

Q 福祉の関係機関や関係団体との連携も重要と考えるが、何か対策を講じられているか。

A 平成27年3月に、井手町社会福祉協議会と災害ボランティアセンターの設置・運営等に関する協定を締結しており、災害時には社会福祉協議会においてボランティア受け入れなどの運営をはじめ、情報提供や町との連携・協力などを実施していただく。

Q 資格の条件緩和や撤廃ができれば、女性消防団員の参画による

きめ細やかな対応や、消防団OBや専門知識を持つ職種の方による消防団の後方支援や自主防災組織との橋渡が期待できると思うが町の考えは。

A 実際に活動している消防団や、自主防災組織の長さや区長に支援等の必要性や活動の範囲及び内容等について意見を伺いながら協議していく。



過去の防災訓練の様子

議会の個人情報保護に関する  
条例制定に向けて

委員長 脇本 尚憲

2月17日に委員全員出席のもと開催しました。

今回の委員会の目的は、制度改正に伴い、議会独自で個人情報保護のための新規条例を制定する必要があることから開催しました。

事務局から新規条例についてのこれまでの作成経過と、その概要について説明を受けた後、委員会メンバーより意見・質疑を受けました。

今回の委員会  
で意見調整  
を行い、令和  
5年3月定例  
会に、新規条  
例制定の議案  
を提出するこ  
ととなりました。



「井手町個人情報保護法施行条例制定の件」  
「井手町個人情報保護審査会条例制定の件」  
「井手町地域振興交流拠点施設の設置  
及び管理に関する条例制定の件」

委員長 脇本 尚憲

3月16日に5名の委員全員出席のもと、町長並びに副町長、関係者の出席を求め、審査が行われました。

今回個人情報の保護に関する法律が改正され、新たに全国で統一的なルールが適用されることになったため、委員からは、改正概要や罰則規定など条例制定についての質疑がありました。

また、町地域振興交流拠点施設関連の条例制定の件では、新たに設置される「テオテラスいで」の施設利用料などについての質疑がありました。

採決の結果、3議案ともに「全会一致」で、「原案のとおり可決すべきもの」と決しました。



主な質疑の内容は次の通りです

○井手町個人情報保護法施行条例制定

Q 個人情報の開示請求例は。

A 戸籍謄本や住民票の交付申請書の写し、要介護認定の結果通知書などの請求例がある。

Q 罰則規定の適用例は。

A これまで町で適用例はないが、職員が個人情報等を故意に悪用した場合などには罰則が適用される。

○井手町個人情報保護審査会条例制定

Q 委員や開催頻度、開催内容は。

A 委員は、現在、大学教授・弁護士・人権擁護委員・行政相談委員・公平委員の5人が就任されており、委員の委嘱も兼ねて2年に1回程度開催している。

○井手町地域振興交流拠点施設の設置及び管理に関する条例制定

Q 現在の準備状況と将来的なスケジュールは。

A これから「出荷者協議会」を設立し、野菜や野菜に関する加工品などを陳列する年間計画を作っていく。

鳥獣被害をなくすために

鎌田 隆宏

1月25日～27日に全国市町村国際文化研究所で開かれた「鳥獣被害と自治体の対応」の研修に参加しました。

「野生動物による農林業被害」・「野生動物から農作物を守る」・「鳥獣被害対策の取組」・「地域社会のための獣害対策」の講義を受け、島根県美郷町三郷バレー課 安田氏から「地域資源としてのジビエ」について事例紹介がありました。

講義後は、演習としてグループ討議・発表・講評があり、自分たちの町の被害や現状などを話し合うことができ、勉強になりました。

講師の方々が、「鳥獣被害は無くすことが出来ず」と話されましたが、住民が主体となり、正しい対応を行政の支援で行うことが被害をなくすために必要だと思いました。



常任委員会合同視察

廃棄物処理常任委員会委員長 奥田 俊夫

1月17日・18日の2日間、城南衛生管理組合議会の常任委員会合同視察として、本町からは木村議員・奥田議員の2名が参加しました。

初日には、資源循環型社会の構築を図るため、「環境保全対策」と「産業振興」を統合した地域政策を推進されている、福岡県の北九州市エコタウンセンター・北九州エコタウン事業エリア（廃木材・廃プラスチック事業・蛍光管リサイクル事業）の3施設を視察しました。

2日目には、佐賀市清掃工場を視察し、脱炭素社会における焼却施設の在り方など、今までと違った発想の転換として、新たな分野の開拓をされていることに非常に感心させられました。



「あたたかい京都づくり」

をめぐして

2月3日にホテルグランヴィア京都で「令和4年度 京都府議会・市町村議会正副議長合同研修会」が開催され、本町からは西島議長と谷田副議長が参加しました。

今回の研修会は、地方議会が抱える共通の行政課題等に関し、府議会と市町村議会が共通の理解と認識のもと、諸課題に対応できるように開催されたもので、菅谷府議会議長の開会挨拶に続き、西脇府知事から、「あたたかい京都づくり」をめぐして」と題して、講演がありました。

「子育て環境日本一・京都」の実現を目指す京都府の取組状況が聞け、大変有意義な研修会となりました。





玉水駅前休憩所「さくら」

# いでたんが聞く

新米記者いでたんが町に出かけて、まちのこといろいろ聞いてみます。

井手町玉水駅前休憩所「さくら」で働く皆さんにお話を聞きました。



いでたん



## 玉水駅前休憩所「さくら」はどのような場所ですか

井手町を訪れる方が休憩に来られます。また、住民の方の憩いの場にもなっています。



## 現在何名の方が働かれていますか

5名登録しており、通常時は1日4名で、交代しながら営業しています。



## 食事のメニューはどのようにして決めていますか

旬のものや、地元の野菜を使って決めています。



## 一番人気のメニューはなんですか

ハンバーグ、鶏の甘酢あんかけ、オムライスなどです。



## 一日何名の方が来店されますか

20~30名の方が来店されます。



## どのような方がお客様として来店されますか

1人の方(独居の方)、事業所や近くの方、通行人などです。



## さくらのPRをどうぞ

これまで新型コロナウイルス感染症対策のため、テイクアウトのみの営業でしたが、5月になれば、店内での営業を再開する予定ですので、ぜひお越しになってください。お待ちしております!



取材当日はお彼岸が近いこともあり特別メニューの牡丹餅を作っておられました。完全予約制での販売でしたが400個の牡丹餅を手際よく作り楽しみにされていたお客様がひっきりなしに来店され買い求めておられました。

取材協力ありがとうございました!

